令和2年第3回・第4回定例会委員意見概要及び提言の方向性について

(1) 令和2年第3回定例会提言の方向性について

前回（10月2日）の特別委員会において、各委員より出された意見を総合し、委員会としての提言の方向性の検討を行った。

重点調査項目3 高齢者にも住みよいまちづくり 高齢者の移動手段と買い物弱者対策の取組について

提 言 の 方 向 性	
1. 支え合い会議の活性化	<p>支え合い会議の各地域の取組については、他の地域へも情報提供や共有を行い、各地域での取組につなげるとともに、より多くの区民に広まるよう、周知の工夫・強化をすべきである。特に、移動支援・買物支援の取組や、移動スーパー「とくし丸」など民間サービスなどの様々な情報は、関係機関で共有し、高齢者が必要な情報をスムーズに得られるような体制をつくるべきである。</p> <p>また、支え合い会議の活動がより活性化していくよう、区の取組について積極的に各地域の支え合い会議へ情報提供していくべきである。</p>
2. 民間事業者などの活用と支援	<p>移動支援・買物支援について、東京都が検討している施策も含めて、区として積極的に民間事業者、NPO、ボランティアなどに関わり、協力体制を構築し、各地域での取組につなげていくべきである。</p> <p>また、今後需要の高まりが予想される移動販売については、継続的な実施と普及拡大のために、民間事業者に対する支援を検討すべきである。</p> <p>さらに、高齢者のスマートフォン普及率は一定程度あるため、買い物アプリなど、手軽に高齢者が利用できる媒体を積極的に活用していくべきである。</p>
3. 高齢者の移動支援の取組促進	<p>高齢者の移動支援については、課題の洗い出しだけでなくニーズ把握も強化すべきである。</p> <p>また、高齢者が、買い物・病院・区役所に限られることなく、体育館や図書館、区民農園など、様々な目的で外出し、いきいきと趣味や地域活動などでまちに出ている環境の実現のための具体的な取組を進めていく必要がある。</p>

(2) 令和2年第4回定例会委員意見概要及び提言の方向性について

前回（12月8日）の特別委員会において、重点調査項目に関して出された各委員の意見概要は以下のとおりであり、これらの意見を総合し、委員会としての提言の方向性をまとめた。

重点調査項目3 高齢者にも住みよいまちづくり フレイル予防事業について

意見概要		提言の方向性	
①	フレイルチェック測定会の参加者の継続性がとても重要である。参加する意欲を高めるために、フレイル予防を継続するとどのようになるのか、アプリを活用して数値やデータを見える化する方が有効である。継続性を保つために、見える化に特化して事業を進めていくべき。(渡辺委員)	1. 事業参加者の継続性	<p>フレイルチェック測定会参加者の意欲を高め、継続性を保つために、フレイル予防を続けた場合とそうでない場合の違いを数値などの見える形で示すとともに、フレイル予防事業のゴールを明確にし、測定会参加後に参加者が次の目標を持てるように事業展開すべきである。</p> <p>さらに、参加者に対して地域のボランティアやコミュニティビジネスなどの様々な情報を継続的に発信し、有機的につなげていくべきである。</p>
②	継続性を高めるために、フレイルチェック測定会に参加することによって、次にどこへつながっていくのかが見えるような事業展開が必要である。また、課を超えて、有機的に区の様々な施策につなげていくべき。さらに、コミュニティビジネス、地域のボランティア、高齢者大い学校に関する様々な情報を継続的に発信するべき。(小林委員・寺田委員)		
③	フレイル予防事業は、個々人の行動変容までつなげることをめざしている。区民のモチベーションを向上させるために、ゴールがどこにあるのか明確に伝え、ゴールに向かって着実に事業を進めていく必要がある。(寺田委員・小林委員)		
④	事業を進める中で、医療費の削減や介護予防への波及効果など、明確な立ち位置を定める必要がある。(寺田委員)		
⑤	区で作成した「シニアのための『おうち時間を楽しくすごす知恵袋』」の冊子について、フレイル予防事業の全対象者へ行き渡るような方法を検討するべきである。(かいべ委員・杉田委員)	2. 事業の周知強化	<p>一人でも多くの方がフレイル予防事業に参加するために、フレイル予防は日常生活における仕事や趣味活動なども含まれ、気軽に取り組むことができる身近なものという意識づけが必要である。</p> <p>また、フレイル予防に関する情報は、全対象者へ行き渡るよう、発信方法を検討し、裾野を広げていくことが重要である。</p> <p>さらに、医師会、歯科医師会など外部の機関に対しても積極的に周知し、協力を得ることも有効である。</p>
⑥	歯科医師会など外部の関係機関へ、区のフレイル予防事業を積極的に周知し、協力を得ていくべきである。(寺田委員・小野田委員)		
⑦	普段の生活の中で、仕事や趣味活動などもフレイル予防に含まれること、気軽に取り組めるものであることを伝え、フレイル予防は身近な取組であることを区民に意識づけることが重要である。(田中委員)		
⑧	フレイル予防事業に1人でも多くの方が参加することが事業の推進につながる。裾野を広げて、事業を周知徹底することが重要である。(かいべ委員・田中委員)		
⑨	対象者が自身の状態を知るために、フレイルチェックの浸透が必要である。気軽にフレイルチェックを行えるような環境づくりが重要である。(田中委員)	3. フレイルチェックの普及	<p>フレイル予防事業を推進する中で、自身の状態を知ることができるフレイルチェックを対象者へ浸透させることが重要である。そのために、誰もが気軽にフレイルチェックを行えるような環境づくりが必要であり、測定場所を区民の身近なところに数多く設けるべきである。</p> <p>フレイル予防事業の対象者は範囲が広く、相当数いるため、その規模に相応しい環境を整えるべきである。</p>
⑩	対象者の範囲がとても広いため、それに相応しい規模の体制整備が必要である。(石川委員)		
⑪	対象者が気軽にフレイルチェックの測定に行けるように、身近な場所に会場を設けていく必要がある。(石川委員・小林委員)		